

地域人材ネット

継続的な観光からの地域振興への参加(利賀村・高柳町)

古賀 学 (こが まなぶ)

松蔭大学観光メディア文化学部 教授



○ 登録者情報
所在地
神奈川県厚木市

略歴

平成元年10月 利賀村(現富山県南砺市)より「感謝状」授与。
平成9年5月 東京農業大学より「造園大賞」授与。
平成14年度～ 内閣府・国土交通省「観光カリスマ選定委員会委員」
平成16年10月 利賀村より「村政功労者」表彰。
平成17年10月 高柳町(現新潟県柏崎市)より「感謝状」授与。
平成18年4月 社団法人日本観光協会(現日本観光振興協会)総合研究所所長
平成19年4月 自動車旅行推進機構幹事・事務局長を経て現在顧問。
平成20年度～22年度 東京大学まちづくり大学院非常勤講師
平成21年4月 松蔭大学観光文化学部(現観光メディア文化学部)教授
平成22年度～26年度 立教大学観光学部兼任講師
平成28年度 岐阜県大野町「大野町北岡田家住宅保存活用計画検討委員会委員」
平成28年度 御殿場市「御殿場市観光懇話会委員」
平成28年度 山梨県「山梨観光推進会議委員」
平成28年度 福岡県うきは市「うきは市外部専門家派遣事業アドバイザー」
平成28年度 一般社団法人全麵協「素人そば打ち段位認定制度審議会委員」
平成28年度 EDO ART EXPO実行委員会事務局「EDO ART EXPO実行委員会オブザーバー」
平成28年度 神奈川県「電気自動車地域導入促進モデル事業委託先事業者選考審査会委員」
平成28年度 箱根ジオパーク推進協議会事務局「箱根ジオパーク推進協議会委員」
平成28年度 農村文明創生日本塾設立準備事務局「農村文明創生日本塾設立準備会議委員」
平成28年度 神奈川県「神奈川県観光魅力創造協議会委員」
平成28年度 神奈川県「神奈川県観光大賞審査委員会委員」
平成28年度 福島県三島町「三島町生活工芸村構想策定アドバイザー」
平成28年度 東京都日の出町「日の出町野鳥の森・こども自然公園活用検討アドバイザー」
平成28年度 岐阜県大野町「大野町歴史まちづくりサロンアドバイザー」
平成28年度 栃木市「栃木市シティプロモーション事業策定委員会委員長」
平成28年度 富士宮市「富士山西麓地域観光連絡会議アドバイザー」
平成28年度 神奈川県「国内観光プロモーション業務委託選考委員会委員」
平成28年度 神奈川県「神奈川の歴史観光資源調査等業務委託選考委員会委員」
平成28年度 JTB中国「特定有人国境離島地域現地調査アドバイザー」
平成28年度 神奈川県「神奈川県観光客受入観光整備協議会委員長」
平成28年度 矢野経済研究所「奥出雲町たたら製鉄を活用した観光振興計画アドバイザー」
平成29年度 神奈川県「神奈川かながわ観光大賞審査委員会委員」
平成29年度 神奈川県「神奈川の歴史観光資源踏査等業務委員会委員長」
平成29年度 神奈川県「神奈川歴史観光に係るプロモーション等業務委託委員会委員長」
平成29年度 神奈川県「神奈川歴史観光ガイドブック等作成業務委託委員会委員長」
平成29年度 神奈川県「神奈川県観光レップ事業5カ国業務委託審査会委員長」
平成29年度 神奈川県「ロボット共生社会発信事業モデル空間企画業務事業者選定審査委員」
平成29年度 神奈川県「神奈川県歴史観光ガイドブック編集委員会委員長」
平成29年度 神奈川県「神奈川県観光魅力創造協議会委員」
平成29年度 神奈川県「神奈川県里地里山保全協議会副委員長」
平成29年度 神奈川県「神奈川県鉄道事業者と連携したプロモーション事業業務委員会委員長」
平成30年度 東京都「島しょ地域のブランド支援業務委託企画提案審査委員」
平成30年度 神奈川県「神奈川歴史観光周遊ツアー等業務審査委員会委員長」

(主な兼務職等)

昭和60年度～ 日本離島研究会幹事長
平成14年度～ 東京農業大学地域環境科学部造園科学科非常勤講師
平成23年度～ 一般社団法人江戸クラフト協会理事
平成22年度～ NPO法人観光文化研究所理事長(松蔭大学内)
平成26年度～ NPO法人かやぶき集落荻ノ島理事
平成26年度～ NPO法人交流・暮らしネット理事
平成27年度～ NPO法人ふるさとオンラインワンのまち理事
平成29年度～ 一般財団法人教育文化国際交流財団理事
平成29年度～ 中国青島職業技術学院観光学院観光学科グループ建設指導委員会顧問

(主なアドバイザー等)

南越観光大使

著書・論文等

「現代交通観光辞典」(共著) 2004年5月 創成社
「観光カリスマ～地域活性化の知恵」(共著) 2005年8月 学芸出版社
「観光実務ハンドブック」(共著) 2008年1月 丸善株式会社
「観光キーワード事典」(共著) 2009年4月 学陽書房
「観光を学ぶ」(共著)2015年3月 八千代出版株式会社

(論文)

「観光振興の政策的重要性の認識と組織・人材の強化による持続的観光施策の推進のための提言(平成22年)政策研究フォーラム(地域活性化研究委員会研究報告・政策提言「地域活性化にかかわる政策提言」)
「観光地は地域活性化の重要戦略」(平成22年)(改革者5月号)
「温泉地における住民意識の醸成」(平成22年)社団法人日本温泉協会(温泉)
「石巻市田代島の観光復興支援活動」(平成23年)財団法人日本離島センター(しまNo.227)
「地域との連携事業における観光情報のデータベース化に関する考察」平成23年、観光情報学会
「離島観光の推進において“いま”なすべきこと」(平成23年)財団法人日本離島センター(しまNo.228)
「観光の振興と改正離島振興法」(平成24年)中央文化社(地方議会人9月号)
「ファンを増やす観光戦略と自治体の役割」(平成24年)株式会社ぎょうせい(ガバナンス8月号)
「東日本大震災による観光産業の被害実態と対応」平成24年、日本観光研究学会(学会研究)
「観光地ファンを増やす観光戦略に関する考察」平成24年、中・韓共同主催国際観光学術大会
「農村集落における食文化継承と観光との関連及び継承要因に関する研究」平成25年、日本観光研究学会
「ホスピタリティの視点からこれからの観光を考える」(平成25年8月)公益社団法人日本観光振興協会(観光とまちづくり夏号)
「素人そば打ち有段者の地域参加の意向に関する調査研究」(平成25年)全麺協(20周年記念誌)
「世界遺産の経済効果」(平成28年)文芸春秋(2016年の論点データボックス)

○ 継続的な観光からの地域振興への参加(利賀村・高柳町)

取組の内容

(南砺市利賀村)

昭和60年度～平成元年度、利賀村における「そばの郷」の構想から整備に関する計画策定及び運営指導。その後、昭和61年度、「利賀そばの山里整備計画」策定、昭和62年度、「利賀村山村文化資料展示体験施設整備実施計画」の策定、日本で初めての蕎麦の資料館を中核としたそばの郷の実現化を図りました。それに伴い年間4.5万人であった利賀地区の観光客が年間30万人～40万人に増加。昭和63年度～平成16年度、そばの郷の実現化、世界そば博覧会、「飛翔の郷」構想計画、「瞑想の郷」等一連の整備計画、観光振興策についての指導・助言を行いました。平成元年1月4日から1月14日まで、ネパール・ツクチェ村との姉妹提携事業に参加し、ネパールの観光事情を調査しました。平成13年8月22日から8月29日まで、JETRO「富山県利賀村・ネパールツクチェ村観光・物産交流事業」における観光担当調査員としてネパール・ツクチェ村にて調査を実施し、ツクチェ村の観光現況および今後の観光を通じた交流について報告書のとりまとめを行いました。ツクチェ村に利賀ハウスが完成。平成21年そばによる韓国との交流事業に参加。そばによる地域振興の縁から素人そば打ち最高段位5段審査委員を務めています。

実績

利賀村(現南砺市)では、そばの郷の整備により年間観光入込客7万人から30万人へ、高柳町(現柏崎市)では、じよんのび村等一連の整備により年間観光入込客数万人から40万と、ともに地域のがんばりにより観光客の増加が図られました。現在はさらにこれら地域の新たな再生を支援中。

工夫した点や苦労した点

地域資源の掘り起こしからの観光資源においては、地域に培われた地域文化と、新たに地域振興において必要とされる他文化との融合をどう図っていくかが、もっとも難しい課題の1つになると思います。他文化の導入においては、いかに地域住民の方の理解を得ることができるかが、その定着化の鍵となります。

ひとことPR

観光による地域振興は、即効性も必要かもしれませんが、地域文化の醸成という視点からは、小さな地道な活動を継続的に地域主体で行っていくことが望ましいと思います。また、そのためには真の観光商品を理解する本物のよりよき観光事業者・組織の育成が不可欠だと思います。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革		7	まちなか再生
○	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
	5	定住促進		11	その他
○	6	観光振興・交流			

連絡先

メールアドレス	m-koga[アットマーク]shoin-u.ac.jp	その他	
---------	--	-----	--

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。